



2021 – J3

MICS 実験第一

レポート

課題 J 3

学籍番号	
氏名	
提出日	月 日 ()
提出期限	月 日 ()

1. 目的

課題の目的を説明し、どのようなプログラムを実現するかを説明する。

J3 課題の場合は、「Java のオブジェクト指向の特性を生かした機能の拡張が容易なドローエディタの作成」が目的である。加えて、各自、どのような機能を持ったドローエディタを作るかここで説明せよ。

2. 設計方針

プログラムの基本構想。

どのようなアルゴリズム、データ構造を用いて、目的の処理を実現するのか説明する。なぜ、そのようなアルゴリズム、データ構造を用いたかという考察も含める。ここでは、プログラムの細部には触れない。

J3 の場合は、どのようなクラスを用意して、どのように利用するかを説明する。クラス図を使用すると良いでしょう。

例を 図1 に示す。

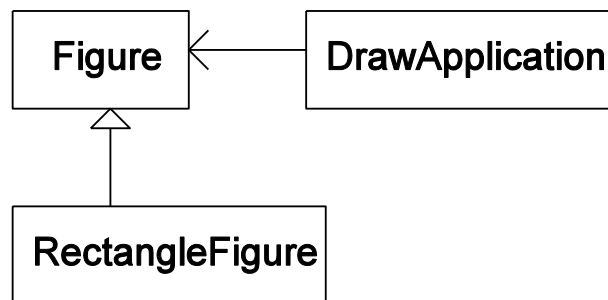


図1. 例. クラス図.

3. プログラムの説明

J3 の場合は、作成したすべてのクラスの説明、クラス同士の関係、実際に作成した各クラスの主な公開メソッド、公開フィールドの説明を行う。必要に応じてプログラムリストを抜粋して説明する。

4. 実行例

実行画面を示す。結果のみでなく、分かりやすく説明する。

必要に応じてグラフや図などを用いる。

例を 図2 に示す。

課題 J 3 の場合は、グラフの代わりにスクリーンショットをつけて、説明すること。

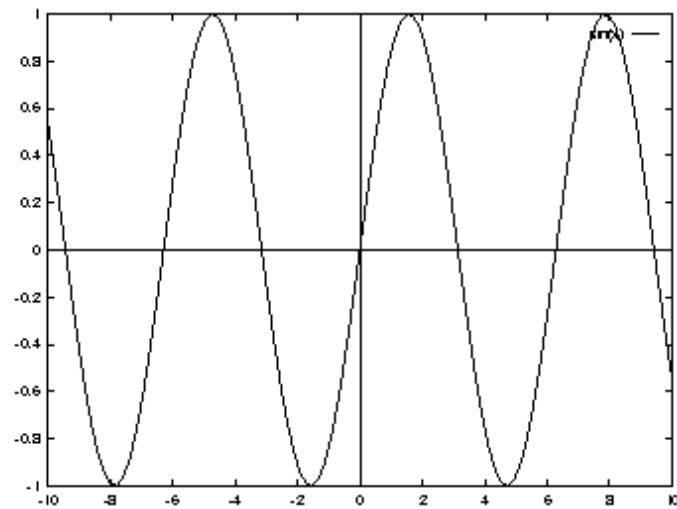


図 2. 例. Sin(x)のグラフ.

5. 考察

実行結果に対する考察, コメント.

J3 の場合は、実現したプログラムに対する考察、今後の改良点、Java や課題 J3 に付いての感想を述べよ。

6. 付録

プログラムリストが 2 ページ以上になる場合は、本文中に含めないで、最後に付録として付けるほうが読みやすい。

cat -n hash.c などとして、行番号付きのプログラムリストを生成して、挿入すると読みやすい。

```
1 struct item* insert(struct item s){
2     int i; struct entry *p, *chain;
3     i=h(s.key);
4     chain=H[i];
5     if(chain){
6         while(chain && comparekeytype(chain->term.key, s.key)) chain=chain->next;
7         if(chain) return &(amp;chain->term); /* 同じ鍵が見つかった 場合*/
8     }
```

レポート作成のためのチェックリスト

課題 J3: Java

提出前に○×を記入すること

- ※ 課題の目的と、実現すべきプログラムが何であるのかが書かれているか？ ()
- ※ どのようにプログラムを設計しようとするのか、その設計方針について書かれているか？ ()
- ※ 作成したプログラムの構成が（独立した文章で）分かりやすく書かれているのか？ ()
- ※ 結果の検討や考察が明確に書かれているか？ ()
- ※ レポートの出来の自己評価は？
(最高を5とした5段階評価:)